

安城の 農業

平成24年5月

安城市

目 次

	ページ
1 安城市のあらまし	1
2 安城農業のあゆみ	2
3 安城農業の概要	3
4 安城市の農畜産物	6
5 生産調整の実施状況	8
6 アン・ジョー環境農業推進事業	9
7 安城アグリライフ構想	11
8 アグリライフ支援センター	12
9 農業委員会	13
10 農業経営基盤強化促進事業	14
11 農地保有合理化事業	15
12 相続税・農業者年金制度農地	15
13 体系・組織	16
14 安城産業文化公園「デンパーク」	17
15 道の駅デンパーク安城	20
16 あいち中央農業協同組合	20

1 安城市のあらまし

(1) 県下13番目の市として誕生（昭和27年5月5日）

安城市は、中部経済圏の中心名古屋市の30km圏内にあり、西三河平野の中央に位置しています。

鉄道はJR東海道新幹線、JR東海道本線、名鉄名古屋本線及び名鉄西尾線のそれぞれ主要な駅があり、道路は国道1号や国道23号が市域を横断しており、恵まれた交通体系が地域の発展に大きく寄与しています。

また、最近では工業化と宅地化の進展に伴い、農業の集約化、工業の先端化、商業の専門化が進んでいます。

市役所の位置	市域	標高
東経 137度 4分 49秒 北緯 34度 57分 31秒	面積 86.01km ² (市街化区域) 21.54km ² (市街化調整区域) 64.47km ² 南北 13.7km 東西 10.6km	最高標点 27.7m 最低標点 0.7m

(2) 人口・世帯数

平成24年1月1日現在 単位：世帯、人

世帯数	人口			人口密度 1km ² 当たり
	総数	男	女	
68,633	181,865	93,030	88,835	2,114.4

(3) 気象

気温 (平成22年)	年間降水量 (平成22年)	年間降水日数 (平成22年)
平均気温 16.5℃ 最高気温 38.4℃ 最低気温 -4.2℃	1,575mm	109日

平 年 値 (昭和56年～平成22年の30年)
平均気温 16.2℃ 年降水量 1,355mm 最高気温 37.2℃ 年降水日数 110日 最低気温 -3.5℃

2 安城農業のあゆみ

(1) 明治用水の開さく

かつて安城市の大部分は、安城ヶ原、五箇野ヶ原、猿町ヶ原などと呼ばれた原野でした。都築弥厚、岡本兵松をはじめとする多くの先人たちの努力によって、明治13年（1880年）に明治用水（碧海郡今村上倉池までの新水路）が完成してから、以後年とともに幹線水路、支線水路がひかれ、原野は開墾され、水田に生まれ変わりました。

(2) 日本デンマークの由来

大正10年頃から昭和15年までの安城を中心とする碧海郡一帯は「日本デンマーク」と呼ばれていました。そのように呼ばれるに至ったのは、以下の理由によるものでした。

- ア 明治30年代中頃、町農会、愛知県立農林学校、愛知県農事試験場が相次いで開設され、農都としての発展の基礎が築かれたこと。
- イ 農林学校の初代校長として赴任した山崎延吉をはじめ良き指導者と明治用水の豊富な水資源に恵まれ、米麦を中心に畜産、そ菜、園芸など典型的な多角経営農業が行われたこと。
- ウ 農民の協同意識が強く、農産物の販売や肥料などの購入を共同で行うなど、産業組合の普及・活動が特に盛んだったこと。
- エ 零細貧困状態の農業を何とか引き上げようとする勤勉な精神を持っていたこと。また、全村学校運動により、一般にも学校が開放され、農村教育が行われたこと。

(3) 農業の組織化

昭和30年代に入ると土地基盤整備事業が進められ、さらに、昭和40年代には農業の近代化を図るため大型機械化を積極的に推進し、農業の組織化を全国に先駆けて実施しました。また、昭和53年に水田利用再編対策がスタートすると、集団転作などの課題に直面しましたが、昭和56年から集落に農用地利用改善組合を設立し、転作の集団化を成功させてきました。

(4) 集落農場構築構想

昭和63年度には、市・安城市農協・桜井農協・安城農業改良普及所との間で協議を重ね、集落全体を一つの農場として捉える集落農場構築構想を打ち出し、翌年度から農用地利用改善組合が実施主体となって集落ぐるみで農業振興に取り組む集落農場構築活動が展開されました。

3 安城農業の概要

(1) 農家数

単位：戸、人、%

年次	農家数						
	総数	専業	構成比	兼業			
				第一種	構成比	第二種	構成比
平成12年	2,980	255	8.6	240	8.1	2,485	83.3
平成17年	2,679	282	10.5	316	11.8	2,081	77.7
平成22年	2,338	232	9.9	233	10.0	1,873	80.1

(農業センサス)

(2) 農家の世帯員数

単位：人、%

年次	平成12年	人口比	平成17年	人口比	平成22年	人口比
人口	12,454	7.8	8,941	5.3	6,765	3.8

備考 平成12年以降は販売農家のみの数値

(農業センサス)

(3) 経営耕地面積

単位：ha、%

年次	総数	田		畑		樹園地	
		面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比
平成12年	3,127	2,681	85.7	282	9.0	164	5.3
平成17年	2,622	2,272	86.7	216	8.2	134	5.1
平成22年	2,564	2,255	87.9	197	7.7	112	4.4

備考 平成17年以降は販売農家（経営耕地面積が0.3ha以上又は、農産物販売金額が50万円以上の農家）のみの数値

(農業センサス)

(4) 1農家当たりの経営耕地面積

単位：ha

年次	平成12年	平成17年	平成22年
面積	1.05	1.44	1.79

(農業センサス)

(5) 農振農用地（色地）面積

単位：ha

年 次	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
面 積	3,718	3,701	3,693	3,691	3,696

(6) 農地面積

(1月1日現在) 単位：ha

年 次	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
市街化区域	83	75	67	61	58
市街化調整区域	3,846	3,824	3,780	3,768	3,760
合 計	3,929	3,899	3,847	3,829	3,818

(資産税課)

(7) ほ場整備実施率

単位：％

年 次	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
実施率	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0

(土地改良課)

(8) パイプライン化実施率

※明治用水の実施率であり安城市全域ではない。

単位：％

年 次	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
実施率	88.8	90.0	90.9	91.1	91.1

(土地改良課)

(9) 安城農業士会会員の状況

平成24年1月現在 単位：人

区 分	稲作	施設野菜	露地野菜	花き	果樹	養豚	酪農肉牛	茶	計
農業経営士	16	12	1	4	1	0	0	0	34
青年農業士	9	5	0	1	1	0	0	0	16
安城農業士	11	6	2	10	3	0	1	1	34
合 計	36	23	3	15	5	0	1	1	84

- * 農業経営士 昭和46年から県が認定
- * 青年農業士 昭和51年から県が認定
- * 安城農業士 会の認定（年齢36歳から）

(10) 新規就農者数

単位：人

年 次	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
人 数	3	2	6	3

(11) 認定農業者の状況

平成24年1月現在 単位：人、%

営 農 類 型		認定農業者	構 成 比
単 一 経 営	稲作	43 (6)	23.8
	露地野菜	8	4.4
	施設野菜	23	12.7
	果樹類	5	2.8
	施設花き・花木	11 (1)	6.1
	酪農	3	1.7
	肉用牛	4	2.2
	養豚	2 (1)	1.1
	小 計	99 (8)	54.7
複 合 経 営	稲 作 + 露地野菜	6	3.3
	〃 + 施設野菜	29	16.0
	〃 + 果樹類	15	8.3
	〃 + 施設花き・花木	2	1.1
	〃 + 肉用牛	1	0.6
	〃 + その他作物	3 (1)	1.7
	〃 + その他畜産	1	0.6
	露地野菜+その他	1	0.6
	施設野菜+その他	6	3.3
	施設花き・花木+その他	3	1.7
	その他複合経営	15	8.3
	小 計	82 (1)	45.3
合 計		181 (9)	100.0

※ () は法人数

平成24年1月現在 単位：人、%

区 分	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	計
認 定 農業者	2	15	45	43	54	13	3	175
構成比	1.1	8.6	25.7	24.6	30.9	7.4	1.7	100.0

ただし、法人分を除く。

4 安城市の農畜産物

(1) 水 稲

作付面積 1, 830ヘクタール（県下第4位）

経営耕地面積に占める水田面積の割合は約71%と高く、水稻作は本市農業の基幹をなしています。

品種は、「コシヒカリ」、「あいちのかおりSBL」が中心で、品種別団地化が推進されています。

(2) 小 麦

作付面積 1, 120ヘクタール（県下第2位）

水田転換作物として振興が図られ、ほとんどが水田で集団転作によって栽培されています。品種は「農林61号」、「イワイノダイチ」が作付されています。

(3) 大 豆

作付面積 952ヘクタール（県下第1位）

麦の後作として定着し、農地の有効利用が図られています。

品種は「フクユタカ」が作付されています。

(4) 施 設 野 菜

ア きゅうり

作付面積 17ヘクタール

大消費地に近く、気象条件もよいことから昭和30年頃から栽培が増え、南部地域を中心に栽培されています。

冬春きゅうりは西三河地域が野菜指定産地の指定を受けており、広域的な西三河冬春きゅうり部会の下、統一された品種・規格で地元中京市場へ出荷され、「三河みどり」のブランド名で販売されています。

イ いちご

愛知県は、全国的に有名ないちごの生産県で、「とちおとめ」、「紅ほっぺ」、「ゆめのか」を中心に栽培され、安城市は西三河産地の一翼を担っています。技術面では、昭和61年から無病苗の供給が始まり、平成16年育苗施設の開設によりウイルス病の浸透防止に役立っています。

ウ チンゲン菜

歴史的にはまだまだ浅いのですが、年間通じて出荷できることや、現時代の食文化多様化の中で、新しい品目としてチンゲン菜の栽培が始まりました。ハウス温室を使った周年栽培により現在、県下トップクラスの産地となっております。

(5) 露地野菜

矢作川沖積層地域と南部地域を中心にして、ほうれん草、ブロッコリー、だいこん、キャベツなどが栽培されています。

(6) 果樹

ア 梨

明治時代から安城市全域で栽培されるようになり、「**安城なし**」として親しまれてきました。

昭和54年から、「幸水」、「豊水」、「新高」への品種転換がなされ、平成2年には地元の育成品種「愛甘水」が栽培され、平成19年からは、中晩生品種の「あきづき」、平成22年には、地元育成の新品種「甘ひびき」の品種登録により栽培が始まりました。

また、平成18年度には、既存の選果機改修により光センサー測定器による糖度・熟度測定が可能となり、より高品質の果物を安定出荷ができるようになり、更なる「安城なし」のブランド強化を進めています。

イ いちじく

昭和46年頃から、転作を契機に作りやすさと収益性から急速に拡大が進み、産地づくりがなされ、隣接の碧南市とで**日本有数の産地**となっています。

また、昭和60年頃からいちじくの加工への取り組みがなされ、ジャム、ワイン、糖果菓子等の製品化がなされています。

ウ ぶどう

昭和初期より東端地区でデラウェアの栽培が行われ、種なし技術の発達で収益性を伸ばし、現在では巨峰と合わせて栽培されています。

(7) 施設花き

ア 鉢ものの類

観葉植物を中心に、洋らん、シクラメンなどの鉢花やポット苗が生産されています。

イ 切り花

菊を中心として、スイトピーなど洋花類、洋ラン切花、枝物類が生産されています。

(8) 畜 産

ア 乳用牛

飼養頭数 215頭

酪農ヘルパー制によりゆとりのある経営を目指しています。

イ 肉用牛

飼養頭数 849頭（和牛 794頭、 交雑種 55頭）

「安城和牛」の商標登録はまだされていませんが、生産管理マニュアルに基づいて、品質本位の生産に心がけ、ブランド化の推進をしています。

ウ 養 豚

飼養頭数 2,869頭

一貫経営により飼養者が定着し、安心・安全・新鮮な豚肉の産地直売に力を入れています。

エ 養 鶏

飼養羽数 24,206羽（成鶏）

消費者の食の安全に関する関心の高まりに対応して、産地直売や消費者に分かりやすい表示の推進をしています。

- 1 水稲、小麦、大豆、きゅうりは、平成22年度（第58次）愛知農林水産統計年報より掲載
- 2 乳用牛、肉用牛、養豚、養鶏は、平成23年度農務課調べ

5 生産調整の実施状況

水田農業構造改革対策実施状況（平成23年度）

区 分	安 城 市
水稲作付目標面積(A)	1,912.4 ha
水稲作付実施面積(B)	1,774.6 ha
水稲作付実施率(B)/(A)	92.8 %
転作配分参考面積(C)	1,225.7 ha
転作実施面積(D)	1,366.4 ha
転作実施率(D)/(C)	111.5 %

6 アン・ジョー環境農業推進事業（市単独事業）

(1) 目 的

農用地利用改善組合の自発性と創意が十分発揮され、新たな集落農場の構築や転作の安定化を展開しつつ、特性を活かした魅力ある地域農業の発展を図る。

(2) 事業期間

平成21年度～平成23年度

(3) 補助金交付対象

各集落の農用地利用改善組合及びその組合員、J Aあいち中央各部会（安城地区）

(4) 補助対象事業

項 目	補助対象事業	内 容
理想の経営	法人化推進	複数の農業経営者が法人化した場合
理想の特産	安城農産物特産品の新規栽培	いちじく、梨、並びに施設栽培野菜（きゅうり、チンゲンサイ及びイチゴ）の新規栽培をした場合
	施設作物の新規栽培	施設作物の新規栽培をした場合
	安城特産果樹の改植	いちじく、梨の改植をした場合
理想の生産	転作団地化推進	転作地を団地化した場合
	面的集積	水田の面的集積を行った場合
	畦畔除去	水田の畦畔を除去した場合
	水稻低コスト栽培	水稻の低コスト栽培を実施した場合
	水稻の団地化栽培	水稻うるち品種の作付を団地化した場合
	担い手のエリア化推進	農地（水田）を1担い手に集積をした場合
	食料自給率の向上対策	転作団地外農地（水稻）で水稻収穫後、露地野菜を作付した場合
理想の集落	農業祭・朝市・夕市の開催	農業祭又は朝市・夕市を実施した場合
	地産地消推進	消費者に対し、地産地消を推進する事業を実施した場合
	親しみ農業の推進	農業への理解を深める事業を実施した場合
	食育の推進	食への理解を深める事業を実施した場合
	広域集落活動の推進	2以上の集落が共同で農業振興のために活動を実施した場合

項 目	補助対象事業	内 容
理想の環境	ほ場美化の実施	ほ場美化及び土づくりを実施した場合
	堆肥利用による土づくり推進	堆肥による土づくりを実施した場合
	環境に配慮した産地化推進	環境に配慮した産地化を図るための事業を実施した場合
	生分解性マルチを使用した産地化推進	生分解性マルチを使用した産地化を図るための事業を実施した場合
	環境に配慮した水稻直播きの促進	浅耕鎮圧式による整地をし、水稻直播きを実施した場合
	環境保全の推進	農業用廃ポリ・廃ビニールの回収を実施した場合
	環境に配慮した提案型事業	環境に配慮した農業に関する独自の事業を実施した場合

7 安城アグリライフ構想

(1) 目的

市域のおよそ半分を農地が占める本市において、今ある農地をいかに有効活用するかが重要です。優良農地を適切に保全するという「量」的な施策と、農地や「農」を媒体に市民の様々な取組みや交流を促進させるという「質」的な施策を一体的に推進することが、本市の農業振興策につながるといえます。

アグリライフ＝「農」のある暮らしを普及・促進することを通して、農業の持続的発展及び優良農地の保全を図ることを目的とします。

本構想は、次の3点を施策の推進方向とし、実現に向けた検討を進めていきます。

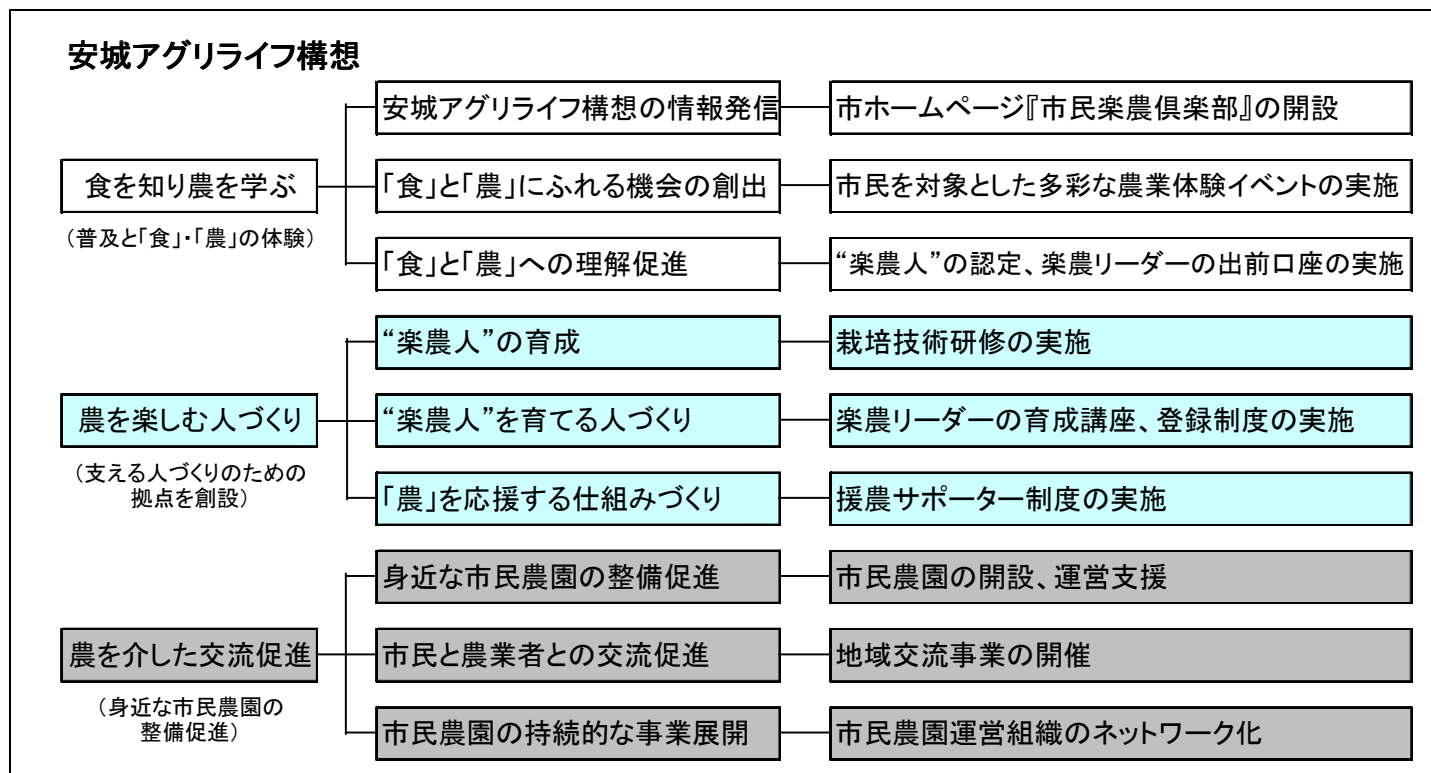
- 1 農業体験や農作物の栽培技術研修等を通して、“楽農人”を育成します。
- 2 農作業や野菜作りの体験を通して、市民と農業者との交流や自然とのふれあいを深めます。
- 3 「食」と「農」への理解の促進を図り、市民の健康づくり・生きがいづくりの場を創出します。

(2) 推進期間

安城アグリライフ構想は、2008年（平成20年度）を初年度として2017年（平成29年度）までの10年間を推進期間とします。

また、本構想における施策の事業効果を高めるため、短期間に重点的に行う個別事業については、5年以内を目途に実現を目指すこととします。

(3) 事業内容



8 安城市アグリライフ支援センター

(1) 全体面積

3, 567㎡ (宅地991㎡、農園2, 576㎡)

(2) 問い合わせ先

安城市アグリライフ支援センター

〒444-1201 安城市石井町辻原131番地2

Tel 0566-92-6200 Fax 0566-92-6122

(3) 施設概要

施設名称	面積 (㎡)	施設内容
事務所・研修棟	(延床面積) 221.13	事務室、共有スペース、給湯室、更衣室、トイレ、研修室
トイレ棟	(延床面積) 16.29	トイレ、シャワー室
倉庫	(延床面積) 95.30	農機具、農薬、資材等の収納
ビニールハウス	72	電源、換気扇、自動灌水設備
実習農園	2, 576	① 実習農園区画 30区画 (1区画約30㎡: 12m×2.5m) ②体験・スポット講座共同ほ場 約475㎡ ③その他施設 暗渠排水管、農水給水口9箇所、洗い場設置 (給水口2箇所)

(4) 平成23年度研修内容

ア 野菜づくり「入門コース」

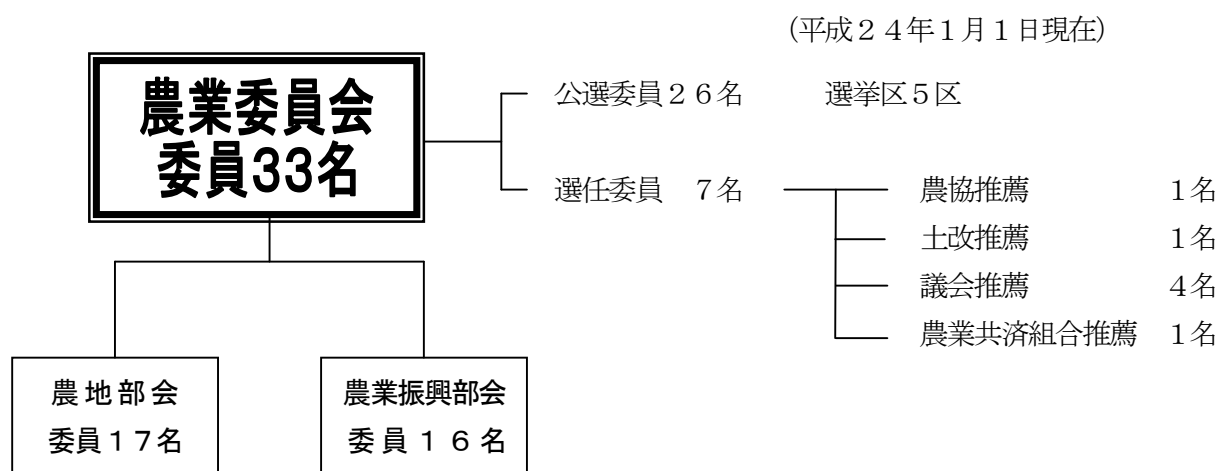
対 象 者		安城市内在住者で農業未経験者及び初心者（年齢制限なし）
研 修 期 間		各約6ヶ月（春夏・秋冬野菜づくりコース）
募 集 人 員		各30名（30名×2コース＝60名/年）
研 修 内 容	研 修 構 成	座学と実習を実施
	研 修 日	週2日程度
	研 修 時 間	平日の午前中2時間半程度
	研 修 方 法	30名を2分し、それぞれの指定日に受講していただく。
	実 習	1人1区画（約30㎡：12m×2.5m）を管理する。 収穫作物は、該当区画の受講生のものとする。
	実 習 作 物	共通作物（指定作物）と選択作物（受講生の希望する作物）を栽培する。 ※共通作物の種子、種苗はセンターより支給、選択作物は受講生が持参する。
	受 講 料	1万5千円（共通作物の種苗費、教材費、保険料などを含む）

イ 「体験・スポット講座」

項 目		①プランター栽培	②親子栽培体験
対 象 者		安城市在住者	安城市在住の小学生以下の子どもとその保護者
研 修 期 間		2回（各回半日）	2回（のべ4日いずれも半日）
募 集 人 員		23名と24組74名	各回30組程度
研 修 内 容	研 修 日	土、日曜日に実施	
	研 修 方 法	プランターは持ち帰り各自で管理する。	共同ほ場で実施し、収穫作物は、受講生で分配する。
	受 講 料	500円～1,500円（材料費相当分）	

9 農業委員会

(1) 農業委員会の構成



(2) 農地法関係申請・届出等の処理状況（平成23年）

区 分		件 数	面 積 (㎡)
農地法第3条関係（権利の移動）		71	126,932
農地法第4条関係 （自己所有地の転用）	許 可	39	8,328
	届 出	20	8,418
農地法第5条関係 （権利移動を伴う転用）	許 可	171	182,044
	届 出	97	37,046
農地法第18条関係（賃貸借の解約）		95	183,238

10 農業経営基盤強化促進事業

(1) 事業概要

- ア 農用地の遊休地をなくし、有効利用を図る。
- イ 認定農業者の育成を図る。
- ウ 安心して農地を貸すことができる。
- エ 申し込みの窓口は農協支店で手続きが簡単。
- オ 借り手農家は市の認定した認定農業者に限定。
- カ 市、農協、農業委員会、営農部会の各機関が相談窓口。
- キ 集落ごとに設立した農用地利用改善組合（38組合）を通じ、日常活動中で積極的に推進を図る。

(2) 集落別利用権設定農地面積の状況

平成24年1月現在 単位：a

地区名	面積	地区名	面積	地区名	面積
里	9,878(44.9)	東尾・河野	2,647(26.7)	根崎	7,925(53.1)
志貴	5,638(40.1)	横山	1,440(40.1)	城ヶ入	5,751(47.7)
浜屋	1,506(58.0)	箕輪	5,429(50.4)	東端	8,405(43.7)
今村	2,959(58.2)	二本木	2,758(53.7)	堀内	3,444(60.5)
篠目・井杭山	2,094(30.6)	高棚	25,613(62.7)	藤野	2,377(24.0)
池浦	2,265(44.7)	福釜	14,473(60.5)	桜井	9,963(49.9)
新田	2,852(36.3)	赤松	9,598(59.7)	東町	1,001(35.3)
三別	2,789(70.8)	古井	2,648(45.5)	姫小川	490(33.1)
平貴	8,145(54.7)	石井	2,458(67.6)	小川	8,992(40.4)
上条	760(21.4)	和泉	8,865(55.2)	三ツ川	6,851(29.5)
西尾	4,592(44.2)	榎前	5,648(55.5)	計32集落	180,254(48.2)

* 面積は属地による。（ ）内は設定率%

(3) 利用権による経営規模拡大状況

単位：人、％

農業経営規模	平成8年7月		平成17年7月		平成24年1月	
	受け手	構成比	受け手	構成比	受け手	構成比
7ha以上	59	45.7	60	42.8	60	65.9
7～5	15	11.5	4	2.9	4	4.4
5～3	13	10.0	11	7.9	3	3.3
3～2.5	2	1.5	1	0.7	2	2.2
2.5～2	9	6.9	8	5.7	4	4.4
2～1.5	10	7.6	15	10.7	1	1.1
1.5～1	15	11.5	25	17.9	4	4.4
1～0.7	3	2.3	6	4.3	4	4.4
0.7～0.5	1	0.7	7	5.0	3	3.3
0.5～0.3	3	2.3	3	2.1	6	6.6
計	130	100.0	140	100.0	91	100.0

＊ 法人の経営規模は、経営面積を当該構成員数で除したもの。

(4) 家族経営協定数

単位：家族

年次	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	現調印家族
調印家族数	3（内更新1）	5（内更新2）	4（内更新2）	4（内更新2）	58

1 1 農地保有合理化事業

(1) 事業概要

- ア 農業経営の規模拡大、農地の集団化を目指す。
- イ 農地保有合理化法人が農地の移動に直接介在し、農業構造の改善を図る。
- ウ 主な事業は、農地等の買入れ、売渡し、借入れ、貸付け及び貸借料の一括前払い。

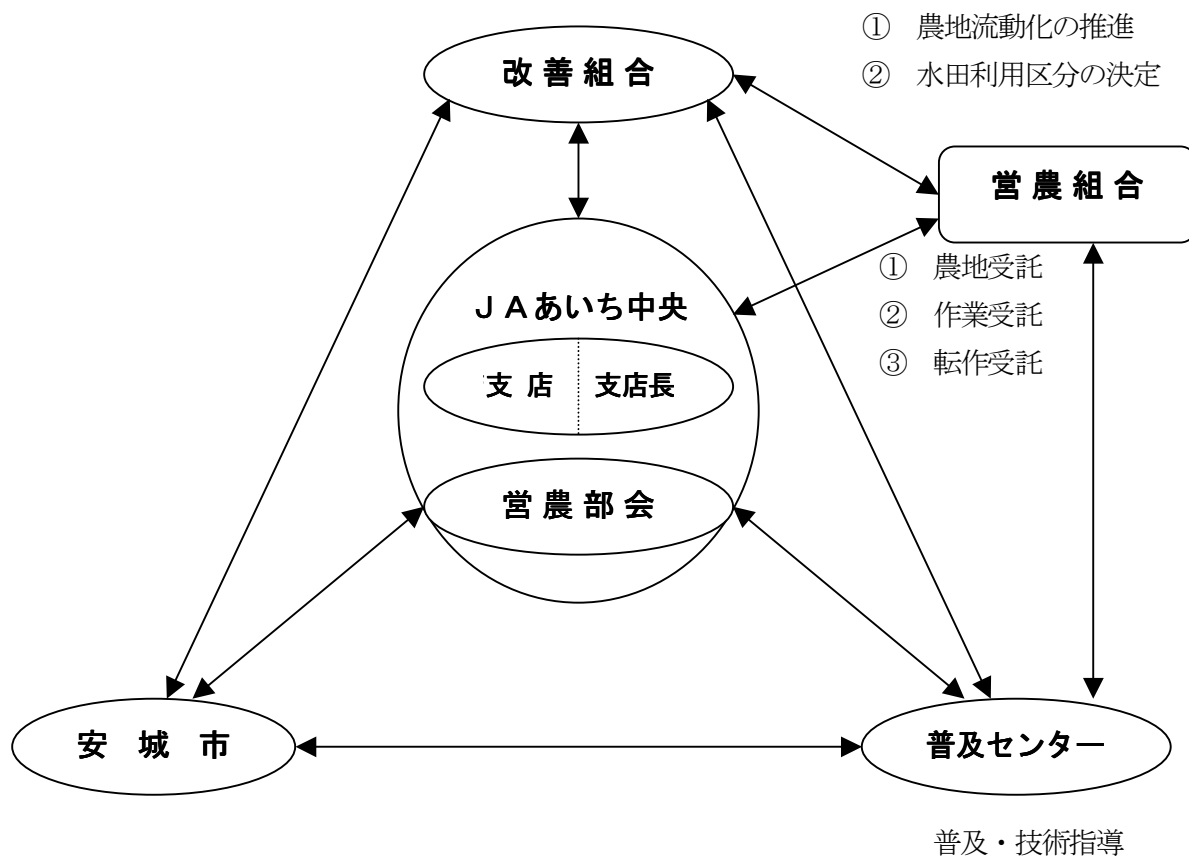
1 2 相続税・農業者年金制度農地

平成23年12月31日現在 単位：ha

区分	農地	相続税（贈与税） 納税猶予制度特例農地	農業者年金制度 特定処分対象農地
市街化区域 2,154	58	5.8	1.1
市街化調整区域 6,447	3,760	345.7	128.6
計 8,601	3,818	351.4	129.7

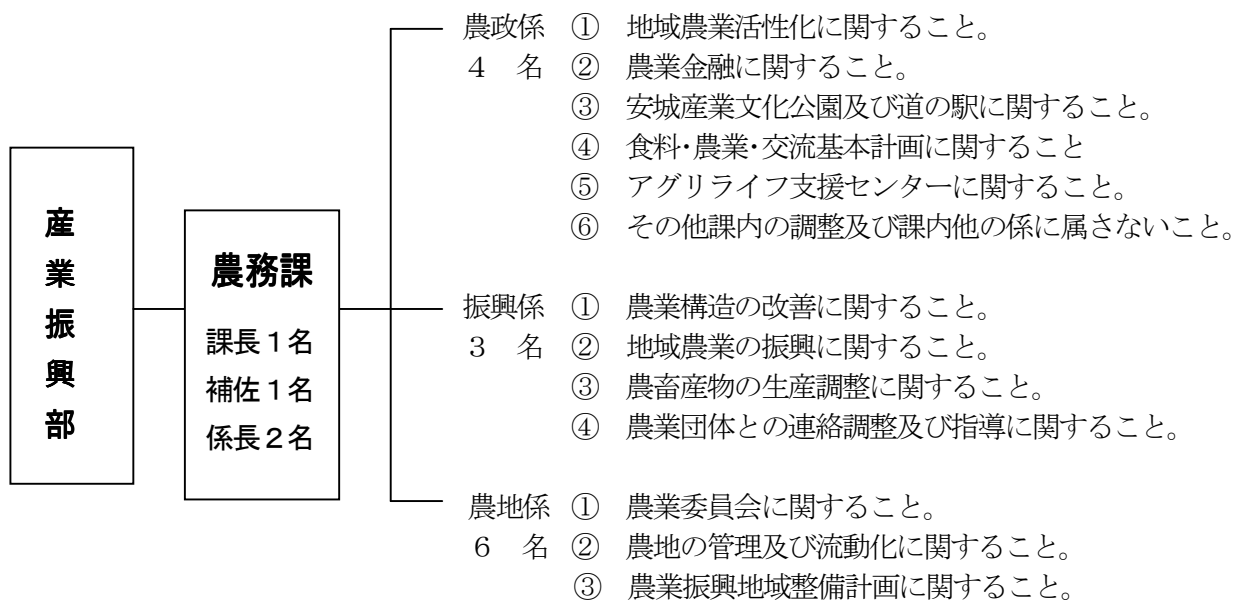
1 3 体系・組織

(1) 安城市の農業振興体系



(2) 農務課組織

(平成24年4月現在)



1 4 安城産業文化公園「デンパーク」

(1) 敷地面積

13.1ha (ナゴヤドームフィールド・10個分)

(2) 問い合わせ先

財団法人 安城都市農業振興協会 〒446-0046 安城市赤松町梶1番地

Tel 0566-92-7111 Fax 0566-92-7115

(3) 主な施設

施設の名 称	面積 (㎡)	施設 の 内 容
デンパーク館 (総合交流ターミナル施設)	734	展示ルーム、情報管理室、研修室 72名、会議室
クラブハウス (農業体験実習室)	820	体験ルーム 50名、シャワールーム、ファームキッチン
ガーデンレストラン (地域食材供給施設)	525	ルームタイプ 82名、ロジタイプ 136名、屋外タイプ 56名
ふるさと館 (地域食材供給施設)	453	郷土料理レストラン 120名、販売コーナー、昔の居間コーナー 20席
マーケット (産地形成促進施設)	980	販売コーナー、工房コーナー、地元土産コーナー
フローラルプレイス (大温室)	3,811	エントランス (カフェテリア、多目的ホール 72席) アトリウム (憩いの空間、イベント会場、花の情報館、写真館、童話館、花工房、民家、ガーデンルーム)
地ビール工房	511	醸造所、見学コーナー、ブルワリーパブ 75席
マーガレットハウス (無料休憩施設)	536	軽食・休憩コーナー、販売コーナー

(4) 入園者数

年 度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
入園者数	500,048	456,929	472,471	472,402	432,789

(5) 補助事業名

農林水産省	農業農村活性化農業構造改善事業（平成5～6年） 地域農業基盤確立農業構造改善事業（平成7～8年）
愛知県	魅力ある愛知づくり事業（平成7～8年）

◆ デンパークのあゆみ

平成元年	2月	市議会より「農業公園の建設についての要望書」の提出
平成4年	12月	基本計画の作成
平成5年	12月	公園の名称を「 安城産業文化公園デンパーク 」に決定
平成7年	3月	クラブハウス・ガーデンレストラン完成
	11月	デンマーク駐日大使来安
平成8年	1月	デンパーク館完成
	3月	マーケット・ふるさと館完成
	4月	財団法人 安城都市農業振興協会設立
	12月	花の大温室フローラルプレイス完成
平成9年	2月	花の大使に女優「紺野美沙子」さんを任命
	3月	地ビール工房完成
	4月	24日 竣工式典（参加 550人）コリング市（デンマーク）友好都市提携

4月 29日 グランドオープン

	5月	4日	入園者10万人達成
	7月	18日	入園者50万人達成
	11月	23日	入園者100万人達成
平成10年	3月	5日	高円宮同妃両殿下 デンパークお成り
	6月	7日	入園者150万人達成
	10月	10日	秋穫祭開催にデンマークの「トリトナス」合唱団来園
平成11年	2月	26日	ジャパン花フェスタに出展
	3月	12日	フラワードーム'99 ガーデニング部門銀賞受賞
	4月	24日	入園者200万人達成 第1回ガーデニングコンテスト開催 ANJOフラワーフェスティバル'99をデンパーク館で開催
	10月	9日	秋穫祭開催にデンマーク・コリング市より「コリング・ブラス・カルテット」来園
平成12年	1月	10日	安城市成人式開催（この年から会場がデンパークで）
	3月	15日	フラワードーム2000 ガーデニング部門金賞受賞
		25日	「風車の広場」オープン
	4月	29日	銀梅花除幕式典 デンマーク・コリング市より「コリング音楽学校」来園
	12月	3日	入園者300万人達成

平成13年	1月	8日	安城市成人式開催
	4月	10日	「道の駅デンパーク」開駅
平成14年	3月	15日	フラワードーム2002 ガーデニング部門金賞受賞
	9月	23日	入園者400万人達成
	10月	12日	デンマーク・コリング市の「コリング・リズムミック合唱団」 デンマーク「レゴランドバンド」来園
平成15年	7月	22日	レゴショップリニューアルオープン
	10月	1日	ブライダルスタート
	11月	16日	デンマーク「マーチン・シャック・トリオ」来園
平成16年	8月	21日	入園者500万人達成
平成17年	4月	19日	デンマーク王国フレデリック皇太子来園
	7月	1日	株式会社デンソーから常務理事を招聘
平成18年	3月	17日	フラワードーム2006 フラワーディスプレイコンテスト部門 愛知県議会議長賞（銀賞）受賞
	4月	1日	安城市指定管理者制度スタート
	10月	30日	入園者600万人達成
平成19年	1月	1日	株式会社デンソーから事務局長を招聘
	3月	15日	フラワードーム2007 あいち花フェスタディスプレイ部門 最優秀賞受賞及びグランプリ受賞
	3月	17日	ローラー滑り台「スカイスライダー」新設
	4月	1日	開園10周年記念事業業務委託契約締結（10周年リニューアル工事）

4月 29日 開園10周年を迎える

			自動演奏オルゴール「ポール・ラッシュ」新設
	10月	13日	鉄砲山整備に向けた子どもWS開催
	10月	14日	鉄砲山整備に向けた大人WS開催
平成20年	3月	1日	メルヘン号リニューアル（BDF化）※廃油の回収開始
	11月	23日	入園者700万人達成
平成21年	2月	22日	鉄砲山整備市民作業WS開催
	3月	20日	デンパーク鉄砲山リニューアル式典 不思議の森リニューアル
	3月	26日	開園10周年リニューアル工事終了
平成22年	4月	1日	アイシン・エイ・ダブリュ(株)より常務理事を招聘
	12月	22日	入園者800万人達成
平成23年	3月	19日	新メルヘン号導入（BPF）
平成24年	3月	17日	四季の花木園リニューアル

1 5 道の駅デンパーク安城

- (1) 施設内容 休憩・道路情報案内コーナー（64㎡）
物販・産直品コーナー（114㎡）

- (2) 問い合わせ先

道の駅デンパーク安城

〒446-0046 安城市赤松町梶5番地

Tel 0566-92-7114

1 6 あいち中央農業協同組合

- (1) 設立の経緯

平成8年4月1日にJA碧南市、JA刈谷市、JA安城市、JA高浜市、JA知立市の碧海地区の5JAが合併してJAあいち中央として発足しました。

- (2) 組合員・役員・職員数

平成23年3月末現在

組合員数（人）			役員数（人）			職員数（人）		
正組合員	准組合員	合計	理事	監事	合計	一般職員	営農指導員	生活指導員
13,815	25,997	39,812	36	6	42	1,062	27	19

- (3) 事業所

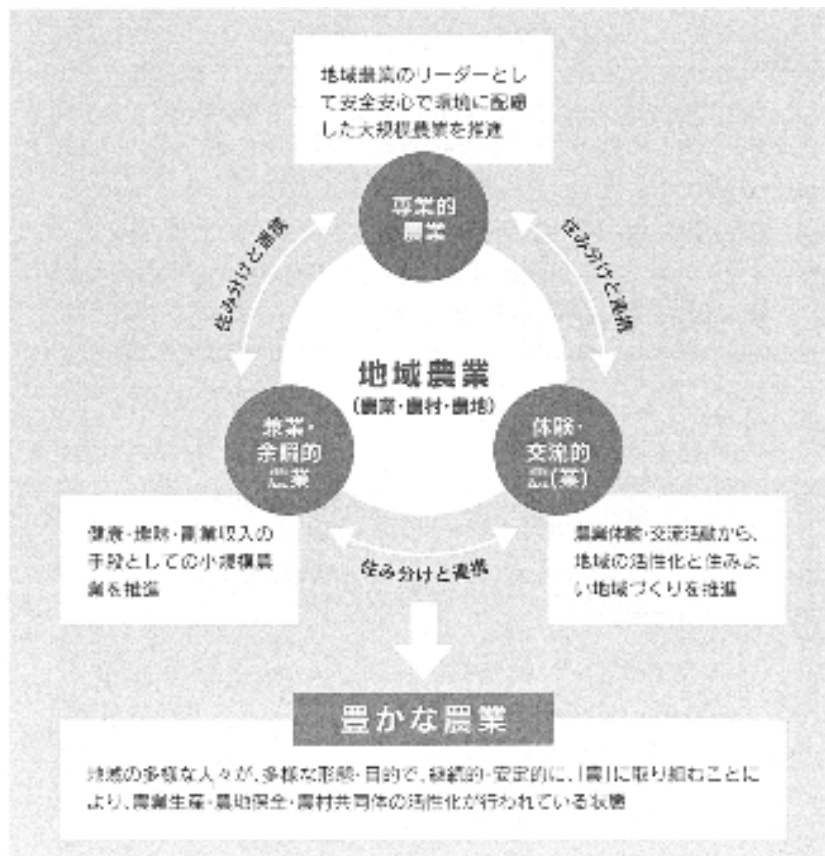
平成23年3月末現在

事業所		
本店	1 (1)	LP販売所 3 (1)
支店	29 (13)	営農センター 10 (3)
電算センター	1 (1)	給油所 5 (3)
産直センター	9 (6)	農機センター 4 (2)
デイサービス	3 (1)	セレモニーホール 4 (1)
ライスセンター	2 (0)	精米工場 1 (1)
		資産相談センター 3 (1)
		旅行センター 1 (1)
		グリーンセンター 3 (2)
		カントリーエレベーター 2 (1)
		自動車整備工場 1 (1)

*（ ）内は安城市内に所在する事業所の内数

(4) 営農振興計画

伝統的な農業地帯でありながら急速な都市化が進行しているという特性を踏まえつつ、地域農業の安定的・継続的な維持発展を確保するためのテーマとして、多様な目的で農に参画している農業者が農家の単位であり生活の単位でもある地域農業といつ大きな枠組みの中で共生し、お互いに住み分け助け合いながら地域農業・農地・農村の維持発展に取り組む「**豊かな農業の実現（追求）**」を推進していきます。



・「豊かな農業」の6つのキーワード

多様な担い手

- … 専門的農家、兼業的農家の担い手育成
- … 就農者、就農希望者への支援

強い経営体

- … 効率的、合理的な生産体制（規模拡大、作業分散等）
- … 販売を基点とした生産指導（ブランド化、加工等）

農地利用

- … 農地の所有と利用の分離
- … 団地化（面的集積、適地適作）

安全安心

- … 環境と調和した農業の拡大（エコファーマー等）
- … 環境と調和した資材の拡大（生物農薬等）

農業理解・交流

- … 農業体験と連動した食農教育の実践
- … 産直、学校給食を中心とした地産地消の拡大

農を通じた地域づくり

- … J Aによる「くらしの拠点」としての地域活動
- … 村まつり、伝統文化の継承

(5) JAあいち中央総合センター（集合施設）の概要

No.	施設名	完工年月	事業費(万円)	構造	面積㎡	備考
1	生活館	H02.05	29,950	鉄筋コンクリート	1,373	
2	精米工場	S63.10	15,749	鉄筋カラーベスト	772	H13.02精米設備一部更新
3	生活 新予約共同購入集配センター	H14.05	1,000	鉄骨折板		旧肥料倉庫改装
4	燃料センター事務所	H11.10	813	鉄骨折板	69	旧安城中部営農サブセンター
5	燃料倉庫	S47.10	132	鉄骨スレート	84	旧農業庫
6	総合センター事務所	S48.08	12,140	鉄筋コンクリート	1,215	H06.06改装
7	資材倉庫	S43.08	1,182	鉄骨スレート	1,367	
8	梨選果場	S48.07	5,349	鉄骨スレート	1,081	処理能力年間1,000t
9	いちご選果場	S46.03	2,595	鉄骨ブロック	560	H10.12改修
10	いちじく集出荷場	S54.08	2,250	鉄骨スレート	311	H12.12冷凍機更新
11	予冷保冷库	S59.10	8,930	鉄骨スレート	438	トンネル式予冷库
12	大豆集出荷場	S56.07	4,877	鉄骨スレート	853	
13	パテコン収納庫	S56.03	7,000	鉄骨スレート	140	
14	安城中支店	H19.11	12,600	鉄骨2階	486	
15	総合センター給油所	S47.07	3,650	鉄筋コンクリート	2,450	H18.08改修
16	石油基地	S50.04	660		116	H04.計量機更新、H17.11改修
17	農業機械センター	S46.03	9,300	鉄骨ブロック	2,100	H01.06改増築
18	自動車整備工場	S46.03	6,060	鉄骨スレート	879	H07.08増築
19	自動車展示場	S62.10	2,300	鉄筋折板	312	H06.05改装
20	営農資材倉庫	H14.05	2,000	鉄骨折板		旧バス車庫等改装
21	農業庫					
22	営農部（営農資材）					
23	安城営農センター					
24	営農配送センター					
25	肥料倉庫					
26	プロパン庫	H05.12	320	鉄骨ブロック	47	
27	低温倉庫	S44.10	9,400	鉄筋コンクリート	1,565	収容能力10万俵
28	種子センター	S45.10	1,259	鉄骨折板	930	H06.03増築
29	花卉集出荷場	S51.09	1,500	鉄骨スレート	330	
30	育苗センター	H06.03	15,000	鉄骨スレート	863	
31	胡瓜選果場(カッパドーム)	H08.12	74,000	鉄骨スレート	3,240	処理能力5,500t
32	カントリーエレベーター1号基	S47.01	70,000	鉄骨折板	610	各1基2,000t
33	カントリーエレベーター2号基	S48.03				H02.06改修
34	カントリーエレベーター3号基	S49.03	90,000	鉄骨折板	993	各1基2,500t・色彩選別機導入・H06.08改修
35	カントリーエレベーター4号基	S50.03				
36	カントリーエレベーター5号基	S55.03	55,000	鉄骨折板	760	1基2,500t H15改修工事 色彩選別機導入
37	粳穀タンク	H01.08	2,245			容量700㎡
38	麦バラ出荷場	S57.12	17,000	鉄骨スレート		5基併設1,000t
39	麦専用サイロ	S57.12				
40	飼料倉庫	S50.08	808	鉄骨スレート	275	
41	穀物検査場	H16.03	1,610	鉄骨折板	151	
42	カントリーヴィレッジ(喫茶)	H19.01	3,572	木造	164	客席62

【総合センター全体写真】



所在地・・・愛知県安城市赤松町浄善50

安 城 の 農 業

発 行 安 城 市 農 務 課

発行日 平成24年5月